

P2-057

幼児・児童・生徒の咬合力の発達について

平元 泉¹、大高 麻衣子¹、薄田 悦子²¹秋田大学大学院 医学系研究科 保健学専攻、²秋田市医師会立秋田看護学校

【目的】

小児期は歯、顎骨および咬筋や側頭筋などの咀嚼筋群が成長途上にあり、永久歯の生え替わりによって、問題が生じることがあるので、口腔機能に応じた食べ方の支援が必要である。そこで、幼児後期（3歳・4歳・5歳）および学齢期（小学生・中学生）の小児の咬合力の発達と関連する要因を明らかにすることを目的に調査をおこなった。

【方法】

秋田県内の保育園20施設・小学校1校・中学校1校の対象児894名の保護者から同意を得た。保育園児608名（3歳児97名、4歳児187名、5歳児324名）、小学生139名、中学生88名、計835名を分析対象とした。保護者を対象にした質問紙調査は、子どもの年齢、性別、現在の身長、体重、在胎週数、出生体重、保育園入園年齢、授乳方法、離乳開始・完了時期、歯の発達年齢、う歯の本数を記載してもらった。咬合力は、オクルーザルフォースメータGM10（長野計器）を使用し、左右の第2乳臼歯または第1大臼歯で2回ずつ測定し、最大咬合力を測定した。分析方法は、保育園児、小学生、中学生の3群の比較、デンタルエイジ3群の比較には一元配置分散分析を用いた。デンタルエイジ2群と要因の比較には二元配置分散分析を用いた。

【結果】

咬合力の平均（標準偏差）は、保育園児121.7（74.1）N、小学生288.1（152.7）N、中学生307.0（160.4）Nで、保育園児より小学生、中学生が有意に高かった（ $p<0.01$ ）。小学生と中学生の差は有意ではなかった。保育園児の3クラスの比較では、5歳が4歳より有意に高かった（ $p<0.05$ ）。3歳児と4歳児、5歳児の差は有意ではなかった。ヘルマンのデンタルエイジの比較では有意差が認められた。ヘルマンのデンタルエイジ2群と背景別の比較では、性別、出生体重別、う歯本数別の主効果が有意であった、入園年齢別の交互作用が有意であった。BMI、授乳方法、離乳開始・完了時期は有意ではなかった。

【考察】

幼児期から学齢期の咬合力は、乳歯列完成後、混合歯列期、永久歯萌出完了期のデンタルエイジによって変化すると考えられる。そのため、歯の発達状態をふまえた食事支援が必要である。乳幼児期から学齢期の小児の咬合力は発達途上にあり、成人期の咬合力の獲得までの重要な土台作りの時期である。看護職は多職種と連携し、乳幼児期から学齢期における食の支援を継続する必要がある。

本研究は文部科学省研究補助金基盤C課題番号（25463462）の助成を受けて実施した。

P2-058

小児喘息の子どもたちへのアプローチ
～保育者・教育者への間接支援（3）新平 鎮博¹、春日 彩季²、濱崎 考史²、新宅 治夫²¹国立特別支援教育総合研究所、²大阪市立大学大学院 医学研究科 発達小児医学

【はじめに】

小児気管支喘息の治療・管理ガイドラインの普及・標準化など喘息治療は進歩したが、アドヒアランスがよい児は医療の恩恵を受けることができない。昨年に続き、保育・教育現場で日常的に子供たちと生活する保育士、養護教諭を対象に、大阪市大の「喘息ドック」紹介や体験を含めた研修を実施し、間接的支援による効果を検討したので報告する。

【対象と方法】

対象はO市内の保育所・保育園の管理職（長、主任保育士）161人、同市の養護教諭35人、保育士は講演形式（時間約20分、昨年度は60分）、養護教諭は、「ぜん息ドック」体験を含めてワーキング形式（約3時間、昨年度は全体を対象に講演形式）で研修を実施し、研修による変化を検討した。

【結果】

保育士対象の研修で、研修終了前後で「もっと治療が必要な児がいる」は、研修前15.0%から研修後21.3%に増加していたが、有意差はなく、昨年度より変化率（昨年度は、研修前18.4%から後56.4%に増加）が少なかった。また、研修の効果の評価項目として「研修終了後、喘息の児の見方が変わった」は31.9%であった。養護教諭の研修では、「学校保健運営に役立つ」100%、「喘息ドックを体験して紹介できる」91.4%、「喘息児の健康管理は今後も重要」100%（昨年度の研修では、21.7%が「必要ない」または「無回答」）であった。また、「健康管理が必要な喘息児のうち、コンプライアンスがよい、あるいは、アドヒアランスがよい児童生徒が在籍する」66.9%（昨年度、研修前：25.4%から後：52.9%）であった。

【考察】

間接支援により医療機関で把握できないアドヒアランスの良くない喘息児へのアプローチなど可能であるが、研修方法、時間・内容の設定が重要であると考えられた。研修の時間だけではなく、ワーキングを取り入れた方法が有用と考えた。